

平成29年度 輸出に取り組む事業者向け対策事業に係る海外販売促進活動報告書

平成30年 3月7日

農林水産省
食料産業局長 殿

全国農業協同組合連合会
輸出対策部
JA全農インターナショナル株式会社
米穀・園芸部

平成29年度における海外販売促進活動について、下記のとおり報告いたします。

対象国・地域 : マレーシア
実施期間 : 平成30年 3月2日～ 3月4日
(フェアに係る出張 : 平成30年 3月2日～ 3月5日)



「マレーシア全農薩摩芋販促フェア」

1. 『マレーシア全農甘藷販促フェア』について

(1) 期間 : 平成30年3月2日(金)～3月4日(日)

(2) 実施店舗 : 巡回順のとおりに

1. Khaishen Wholesale
2. De market
3. Dr Fruits Setia Alam
4. Dr Fruits Kota Kemuning
5. Whole Fruit K.D
6. Star Grocer Taman Mulia
7. Maxvalu Velucity
8. Star Grocer Desa
9. Wholefruit Mahkota
- (10. Just Fruits Subang Medical 売り切れ)

(3) 出張者 : 全農 輸出対策部 遠藤、JA全農インターナショナル(株) 白石

- (4) 内容 : (1) 全農としては日本青果物輸出協議会補助金事業で初めてマレーシアでの販促フェアを実施した。マレーシアでは日本産さつまいもは徐々に人気が出ており、更なる定着を目指して販促フェアを企画した。商品は茨城県産紅まさらとした。
- Cf. マレーシア向け国産甘藷輸出金額推移
2015年 34百万円、2016年 37百万円、2017年 43百万円
- (2) 10店舗で焼き芋もしくは蒸しいもを試食させ、生鮮品と合わせて購入を勧めた。そのうち1店舗は販売好調のため、予定販売数量を一日繰り上げて完売したとの報告を受けた。
- (3) 各店舗に現地プロモーターを配置し、ジャンプランドグッズ、産地提供資材、および全農提供資材を利用して販促にあたった。
- (4) 全農のマレーシア向け甘藷輸出は昨年の12月から始め、約1,000ケース(5KG/箱)の見込みである。今回のフェアは直近2月26日にマレーシア着の最新商品(300ケース)を使い、3日間で100ケースの売り上げが実現できた。
- (5) 出荷商品と日程は以下のとおり)

品目	産地	重量	輸送手段
甘藷(紅まさら)	茨城県	1,500kg	海上コンテナ

出荷日程:

- 2月13日 産地倉庫よりトラックにて出荷
2月24日 シンガポール着後、陸送
2月26日 マレーシア輸入会社倉庫到着
順次袋詰め加工の上、小売りの販売先へ出荷

2. 輸入会社との打ち合わせ、着荷状態確認

(1)出席者 : カイセン社 : アマンダCFO
グローウェルジャパン : 畢琴取締役(兼通訳)
全農 輸出対策部 : 遠藤
全農インタナショナル : 白石

(2)内容 : ○マレーシアには3年ほど前から日本の甘藷が入っており、マレー系中国系、インド系の住民とも食味、品質を評価している。

○特に現場で焼く甘藷は香ばしくて甘いため、買いやすい商品である。カイセン社は初年度から茨城産を押してきたため、これからも継続販売していく。

○品質的に安定していない部分があり、改善すべき点を指摘された。

- ・一部の商品は切り口に黒いシミがあり、なかなか芯まで焼き通らないとのこと。
- ・一部の商品にカビが出ている。特に12月出荷分は目立つ。
- ・同じ箱にサイズ不揃いも散見される。

○ベトナム産のものは品質的に日本産に負けるが、利益率は高いため、手ごわいライバルとなっている。



フェア巡回1店舗目 : Khaishen Wholesale



全農インタナショナルの青果物担当職員は通訳介して現場商品管理責任者と意見交換。



現地プロモーターによる試食販売。

巡回2店舗目：De market



日青協と産地販促資材で売り場作り、やきいも機で焼き立ていもを試食させ、袋詰め商品を販売。



売価は500g袋詰めで14.99RM
(約550円)

巡回3店舗目：Dr Fruits Setia Alam



産地提供販促資材で売り場作り。店舗周辺富裕層が多いため、高めの売価を設定している。500g袋詰めで25RM(約750円)で販売。



現地プロモーターによる試食販売。スペースの関係で焼き芋機設置せず、蒸し芋を試食に使用した。

巡回4店舗目：Dr Fruits Kota Kemuning



住宅地内の店舗で日本のコンビニストア程度の広さ。蒸しいもで試食販売。



販売過程中発見したカビなど不具合があった場合、加工して試食に使用するなどで無駄を減らす。

巡回5店舗目 : Whole Fruits K.D



ここでは利用客層に合わせて低めの価格を設定している。500g袋詰め
で13.90RM(約410円)で販売。ちなみに現地きゅうりの売価は3本で
約30円だった。



来店客はマレーシア系と中華系などさまざまであった。

巡回6店舗目 : Star Grocer Taman Mulia



STAR GROCERは輸入会社の自社経営スーパーである。中間層をターゲットにしている。



来店客はマレーシア系と中華系などさまざまであった。

巡回7店舗目 :Maxvalu Velocity



イオンは入居しているショッピングモールの入り口。



入り口の一番よいところに売り場を設置し、焼きたてのさつまいもを試食させている。価格も他社との競合か800g袋で14.9RM(約440円)で販売している。



店舗内、他の日本産青果物が販売されておらず、これから提案の余地がある。消費者に試食の他、日本青果物輸出協議会作成の日本青果物紹介冊子も手渡ししている。

巡回8店舗目 :Star Grocer Desa Pandan



輸入会社の自社店舗であり、マレーシア系の住民が多く利用されている。



500g袋で10.9RM(約320円)で比較的安い価格で販売している。



試食された40代の男性は日本産のやきいもを初めて食べたということで甘いから1袋を購入していった。

巡回9店舗目:Whole fruits Mahkota



フェア最終日夕刻のため、売り残りは
わずかであった。販売価格は500g袋
で13. 9RM(約400円)



3. 所感

- (1) マレーシアへの日本産農産物輸出は歴史が浅く、これから拡大していく余地が大きい。
- (2) マレーシア経済は発展を続けているが、クアラルンプールを見た限りでも建設ラッシュの状態であり、好景気という印象だった。
- (3) 従い、国産青果物販売のターゲットにしている富裕層はもちろん、中間層も販売対象にする余地があると考ええる。
- (4) またマレーシア料理は油を大量に使っており、肥満の人が増えており健康志向の傾向はますます強まっていると聞いており、この点も安心安全な国産青果物販売に追い風である。
- (5) 引き続き現地パートナーとの協力関係を強固にし、売れ筋品目を開拓し、安定調達のために産地との連携を図っていく。